

令和6年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和6年漁期（令和6年9月～令和7年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。データの集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚げ金額（図1）

令和6年漁期の漁獲量は3,035トン、水揚げ金額は13.4億円となり、漁獲量、水揚げ金額ともに前年漁期と比べて増加しました。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚げ金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500～4,000トン、11～14億円で推移しています。震災直後は単価の高いヤリイカによって一時的に漁獲量、水揚げ金額ともに増加しましたが、近年は横ばい傾向にあります。

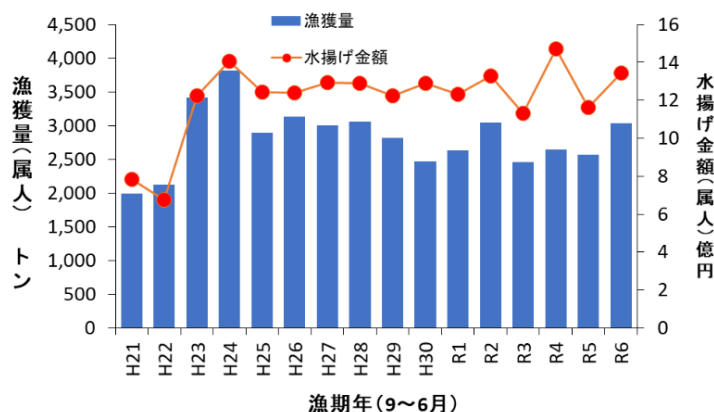


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚げ金額の推移

2. 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種（図2）

令和6年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位サバ773トン（前年漁期194トン、2位）、2位メヒカリ455トン（同668トン、1位）、3位ヤリイカ359トン（同166トン、4位）、4位ヤナギダコ73トン（同93トン、6位）、5位マアジ70トン（同61トン、11位）、でした。

水揚げ金額の上位5種はヤリイカ、メヒカリ、サバ、スルメイカ、ヒラメの順となり、前年漁期に比べてメヒカリは減少、ヤリイカとその他の種では増加しました。水揚げ平均単価は、ヤリイカ997円（前年漁期692円）、メヒカリ496円（同413円）、サバ108円（同86円）、スルメイカ707円（同685円）、ヒラメ790円（同714円）でした。平成23年漁期以降は、平成27年漁期、令和5年漁期を除いてヤリイカが水揚げ金額1位であり、今漁期もヤリイカが1位となりました。

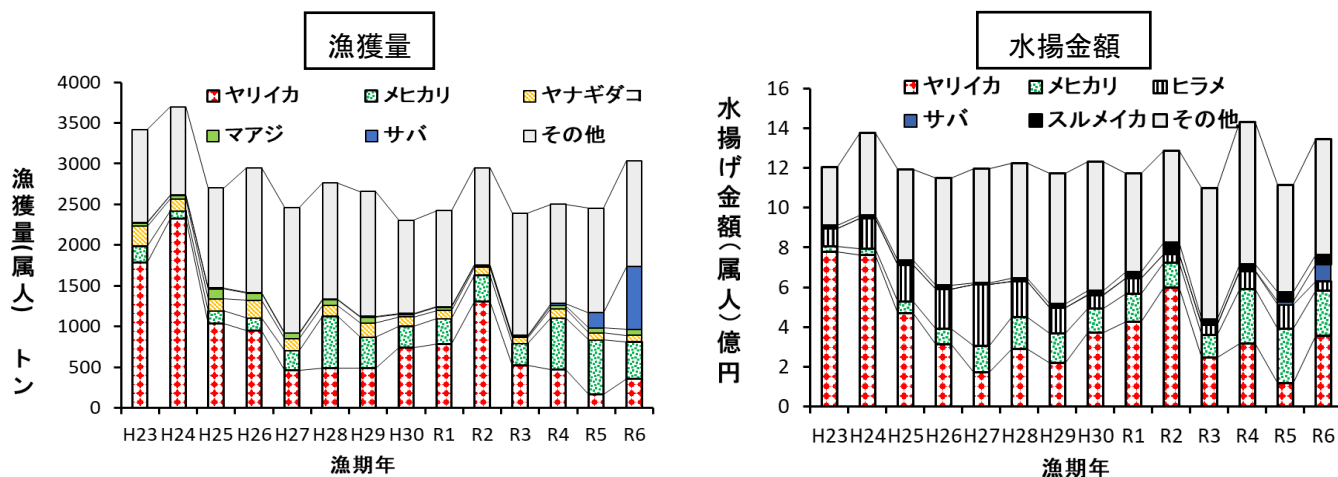


図2 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種の推移

（定着性資源部 西 琉太）

【次回予告】R7.7.25 発行の水産の窓は、「春シラス漁の漁況結果と秋シラスの予測」を予定しています。